2011年12月1日

資料館通信 第64号

ふじみ野市立
上福岡歴史民俗資料館　埼玉県ふじみ野市長宮1-2-11　TEL 049-261-6065
大井郷土資料館　埼玉県ふじみ野市大井中央2-19-5　TEL 049-263-3111

上福岡歴史民俗資料館　第25特別展

信　仰　と　旅

12月18日（日）まで開催

名所や観光地をめぐる旅のスタイルは、江戸時代に原点があるといわれています。大昔、旅は貴族や武士など一部の人々にしかできませんでしたが、江戸時代になると、街道や宿場などが整備され、誰もが安全で快適に旅ができるようになったからです。

また庶民の間では、講や寺社参拝などの信仰も盛んになり、経済的に少し余裕が出てくると、大山・富士山などの登山や伊勢神宮への参詣、観音巡礼など、信仰を名目にして、多くの人たちが旅に出かけていきました。

鉄道も車も発達していない時代に、どのようにして人々は旅をしたのか、旅の根底にあった信仰とは何か、当時の人々が残した「道中日記」などの記録から追ってみたいと思います。ぜひ旅の今昔に思いを馳せて、ご覧ください。

●会　　場：上福岡歴史民俗資料館　1階常設展示室及び2階展示ホール
●入 館 料：無　料
●開館時間：午前9時～午後4時30分
●休 館 日：毎週月曜日

第25回特別展　「信仰と旅」から資料紹介

1．大井氷川神社の木太刀と大山信仰

神奈川県の大山には「納め太刀」の風習があり、木製の太刀を持って参詣し、前に奉納した太刀と取り換えて持ち帰ってくると願いがかなうといわれています。江戸時代は、「奉納大山石尊大権現」などと書かれた大きな木太刀をかついで参詣したようで、浮世絵にも描かれています。近隣では川越市に木太刀にまつわる風習が残っており、太刀を清める「洗い太刀」や太刀が地域内を巡る行事が今でも見られるそうです。

大井氷川神社に奉納されている木太刀は、長さ３ｍ47cmほどあり、慶応４(1868)年３月28日に納めたことの墨書が残されています。それ以上の記録がないので詳しくはわかりませんが、おそらくこの木太刀も大山への参詣の際に運んでいったものではないかと思われます。

2．巡礼の証－納経帳（朱印帳）－

信仰や祈願のために、多くの人々が全国各地の寺社や霊場をめぐる「巡礼」を行っています。展示する納経帳（上福岡歴史民俗資料館蔵）は、嘉永７(1854)年10～12月、安政２(1855) 年４月、安政３年６～７月の３度で千葉県・茨城県・栃木県などの寺社31ヶ所を巡っていたことがわかります。

納経帳「鋸山・日本寺、那古寺（千葉県）」の部分

3．観光地だった御所・公家の邸宅－伊勢道中日記より－

市内には天保６(1835)年、嘉永５(1852)年及び安政６(1859)年と思われる伊勢道中日記が確認されています。伊勢までは全員で参詣しますが、そのあとは帰村する人、奈良・京都・大坂見物、さらには金毘羅（香川県）まで足を延ばす人とわかれ、私たちと同じように有名な寺社・名所などの見物を楽しんでいました様子がうかがえます。

なかでも京都については、見物先がそれぞれ異なっているにもかかわらず、共通して公家の白川家に寄っていた点には興味深いものがあります。白川家とは、伯家神道の「白川伯王家」でも知られている宮中の神事に関わっていた公家で、京都御所の東「日の御門（建春門）」の向かい側（現在は京都御苑内）に邸宅がありました。各道中日記における白川家についての記載は以下のとおりです。

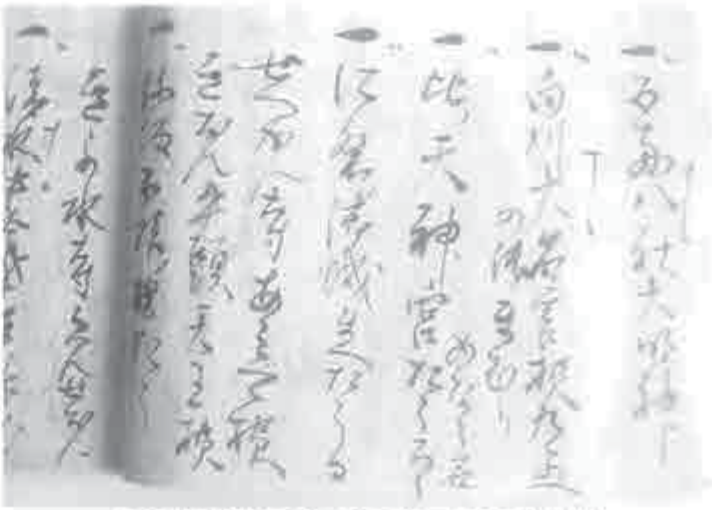
①天保６年　富田家道中日記「白川殿江参り品々御札ヲ頂戴」

②天保６年　玉田家道中日記「白川大名言（大納言）様九のへの御まむり（九重の御守のことか）」

③嘉永５年　島田家道中日記「（前略）あさひの御門　白川様より三上のたく（託宣のことか）出る」

④安政６年　日出間家道中日記「（前略）御所様拝礼。白川様三社御神酒節ふん（節分）豆頂戴」

他市の道中記を見ても白川家に寄っているケースが多く、参拝者には御神酒が有料でふるまわれ、御札を頂戴していました。また、大内裏・紫宸殿・清涼殿など御所の中や仙洞御所、他の公家の邸宅も見物コースの一つにもなっており、宮中や公家の雅な生活を垣間見る貴重な機会だったのでしょう。



玉田家道中日記のうち京都見物の記載部分

原の囃子用具、45年ぶりに確認！

今年度から開始された教育委員会生涯学習課による民俗芸能調査の中で、市内原地区の囃子用具の所在が、ふじみ野市文化財保護審議委員大柴英雄氏により確認されました。

確認された用具は、昭和63年から数年にわたり当時の埼玉県立民俗文化センターが実施した埼玉県民俗芸能調査の成果を踏まえ、同センターが刊行した報告書『埼玉の祭り囃子Ⅳ』の中に「（原地区の囃子は）明治の初めに富士見市の勝瀬から伝わった囃子で、（大井）町制施行記念として昭和四十一年に演奏したのを最後に途絶えている。」と記載されている資料にあたるものです。しかしながら、その所在は不明になっていました。

ふじみ野市公民館原分館に、囃子用具は保管されていましたが、それらは一覧にもあるとおり大太鼓、小太鼓、小太鼓用木枠、屋台提灯、屋台の幕などのほか、囃子の踊りの衣装及び踊りの際に使われる狐やヒョットコなどの面や獅子頭などでした。

なかには「昭和二十二年五月二十五日水子高倉製造」、「亀久保村原」と墨書された面や東京市等の焼印のある太鼓など原地区の囃子の歴史を知る上で大切な囃子用具も含まれていました。

これらの用具は、今後大井郷土資料館が保存管理をし、調査等の手続きを終えた後、随時公開する予定です。

原の囃子用具一覧

No.	名称	員数	備考
1	提灯	10	内七個に「はらはやしれん」と１文字づつ表わす
2	幕	4	屋台用の幕
3	屋台の破風の彫刻	1	
4	大太鼓	1	「東京市」等の焼印あり
5	小太鼓	2	
6	小太鼓用の木枠	1	
7	衣装	8	帯、帯枕などの付属品あり
8	面	7	「水子高倉製」、「亀久保原」等の墨書きあり
9	獅子頭	1	
10	ばち	8組	大太鼓、小太鼓のばち
11	その他	3	麻紐、布等

昭和22年５月25日に水子（富士見市）の高倉家が製造したという墨書のある面（左：表、右：裏）

ふじみ野市の両資料館への資料の寄贈

平成22年11月から平成23年11月まで次の方々より，各種の文化財資料を寄贈していただきました。紙上をもって厚くお礼申し上げます。

市立上福岡歴史民俗資料館分

平成22年

11月９日　福岡町地図（昭和42年）ほか
　市内　石井健二氏

11月９日　弾薬箱・コンロ（電熱式）
　市内　島村一夫氏

平成23年

５月19日　押し寿司箱
　市内　大浦津智義氏

７月２日　綿入れ・櫛・こうがい
　市内　後藤融美氏

７月31日　内裏びな・帯・櫛・かんざしほか
　市内　村田和子氏

９月９日　灯火管制の電球
　市内　洞口　薫氏

10月５日　文書（明治時代）
　市内　布施照子氏

市立大井郷土資料館分

平成22年

12月10日　石臼・石臼台・飯台ほか
　市内　鈴木精一氏

平成23年

８月10日　囃子用具
　市内　原分館

11月８日　五百円札
　市内　小熊千寿子氏

11月12日　乳母車
　市内　岩崎文子氏

寄贈資料の紹介～茶道幼童手引草巻一～

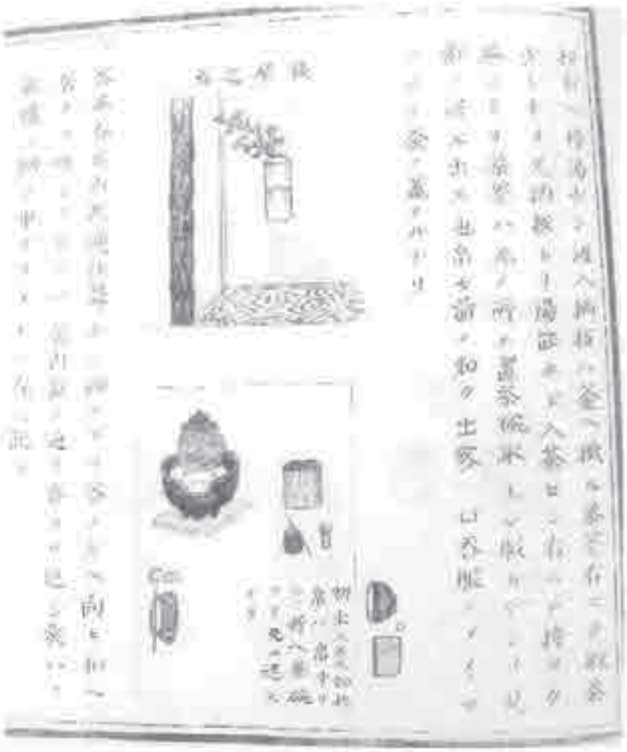
布施さんから寄贈された文書の中に、茶道に関する教本がありました。明治16(1883)年刊行の「茶道幼童手引草巻一」（笠間有水著）です。

著者の笠間有水は、茶道有楽流の家元として明治時代に活躍した笠間政之（号は洗耳庵有水）のことです。元水戸藩士で、廃藩後は東京で活動し、弟子が三千人余りいたといわれています。

茶道の「有楽流」は、織田信長の実弟織田有楽斎に始まるといわれ、江戸時代は格式の高い武家茶道として多くの藩主に好まれていたようです。

この茶道幼童手引草の附言には、「幼童手引草ト名ツケ待合ノ道具濃茶薄茶炭手前懐石ノ出シ順二至ルマテ絵図ニ記シコノ道ニ志アル幼童初心ノ手引ニモトモノ待リ」という一文がありました。確かに本文には、誰もが見てわかるように細かな説明書きと丁寧に絵図が描かれています。

このほかにも有楽流の教本や「真草行三基子秘傳録（明治18年）」があり、いずれも笠間有水から弟子の宮内盛高（台湾総督府の澎湖島司にもなった人物）に伝えられたものでした。本市の歴史・文化には直接関わりませんが、日本文化を知る上でも面白い資料だといえましょう。



『茶道幼童手引草巻一』の一部分